

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Excision of underlying fascia with a primary malignant melanoma: effect on recurrence and survival rates.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ10-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	7123480	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Surgery	
	雑誌 ID		
	巻	92	
	号	4	
	ページ	615-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1. 医学 2. 歯学 3. 看護 4. その他 (1)	
	原本言語	1. 日本語 2. 英語 3. ドイツ語 4. その他 (2)	
	発行年月	1982	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Kenady DE	テキサス大学 M. D. アンダーソン
その他著者 1		Brown BW	同上
その他著者 2		McBride CM	同上
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	原発巣の切除術において筋膜切除が局所再発、生存率に影響を及ぼすか検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	テキサス大学 M.D. アンダーソン	
	対象者	1961 年から 1974 年まで M.D. アンダーソンで治療された患者、107 人で筋膜切除を行い 95 人で筋膜を保存した。遠隔転移のある患者、予防的リンパ節隔清をした患者、遠位四肢原発患者（isolated perfusion が行われている率が高いので）は除外した。1969 年まではほとんどの患者で筋膜切除が行われ、1969 年以降筋膜は切除されていない。	
	対象者情報（国籍）	1. 日本人 2. 日本人以外 3. 国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1. 男性 2. 女性 3. 男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1. 乳幼児 2. 小児 3. 青年 4. 中高年 5. 老人 6. 乳幼児・小児 7. 乳幼児・小児・青年 8. 乳幼児・小児・青年・中高年 9. 乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10. 小児・青年 11. 小児・青年・中高年 12. 小児・青年・中高年・老人 13. 青年・中高年 14. 青年・中高年・老人 15. 中高年・老人 16. 乳幼児・青年 17. 乳幼児・中高年 18. 乳幼児・老人 19. 小児・中高年 20. 小児・老人 21. 青年・老人 22. 年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	筋膜の切除	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	局所再発	1. 主要 2. 副次 3. その他（3 ）
	2	生存率	1. 主要 2. 副次 3. その他（3 ）
	3		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	4		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	5		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	6		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	7		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	8		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	9		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	10		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	主な結果	再発に関して筋膜を切除した群としなかった群では、局所再発（2.8%、5.3%）、所属リンパ節転移（19.6%、25.3%）、遠隔転移（6.5%、10.5%）と有意差はないものの筋膜切除を行った群で良好な傾向が認められた。再発後の生存率に関して 2 群間に有意差は認められなかった。体幹の前後に分けて検討を行ってが、再発と生存率に関して有意差は認められなかった。総生存率に関しても有意差は認められなかった。	
	結論	筋膜切除が予後を改善するという仮説は支持されなかった。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ）